

副総理固辞し、亀井補佐官

国民新党の亀井静香代表は、なぜ副総理としての入閣を断り、首相補佐官になったのか。盟友の新党日本の田中康夫代表が語った。

「首相からの副総理要請は謝絶したが、補佐官は亀井氏の方から言ったと思う。深く考えたうえでのことだ」

そのポイントは。

「先週の、菅・亀井党首会談で、亀井は岡田克也幹事長も同席していたが4項目の申し入れをした。①大幅改造②民主党人事も刷新③参院自民党からの一本釣り④小沢・鳩山グループからも起用して挙党態勢。しかし、結果は参院から1人来ただけで、他はまったく行われなかったに

等しい。亀井はその前から『俺は副総理に就かないよ』と言っていた。男の美学として受けなかった」

男の美学とは。

「(国民新党から)自見金融担当相が入閣している。亀井が入閣すれば出なければならぬ。それに菅の要請がいかに遅すぎた」

遅かったとは。

「100日前、震災直後に副総理兼震災担当相だったら受けていた。いまから、どんな数のスタッフを抱えても仕事は進まない。そして、責任は亀井に来る」

そこで、首相補佐官になった。



「副総理がダメなら補佐官をやってくれ、とは菅は言にくい。格が違う。ただ、菅には北沢俊美防衛相ぐらいしか助言してくれる人がいない。亀井の方から助けよう、と言ったと思う」

4242

亀井氏は救国内閣、復興実施本部を提案してきたが、実現していない。

「しかし、亀井の偉いところは、『本人が辞めると言わない限り、菅首相は辞めさせられない』と見通していた。菅は辞めない。辞めさせることにエネルギーを使ってもしょうがない、と。逆に、菅を使って

国を良くする、という首相機関説だ。だから、仙谷(由人官房副長官)のように菅批判はしない」

仙谷氏の菅批判とは。

「24日、仙谷は菅から『あなたを震災担当相に起用しない』といわれた後、言った。『菅さんは自分より大きな人物は使いたくない人だ』と。亀井は補佐官というより『特別指揮官』のような存在になった」

その理由は。

「補佐官は5人だが、官邸は亀井の担当を『内閣の重要政策全般』と発表した。大きな存在だ。しかも亀井は消費税引き上げもTPPにも反対。面白いことになった」

(ジャーナリスト)

「面白くなった」田中康夫が解説